

育児をするとはどういうことか

——乳幼児の母親とのインタビュー実践における育児と家事の概念分析——

一橋大学大学院 山岸諒己

1 目的

本報告の目的は、育児概念と家事概念とがどのように人びとに用いられるのかについて、エスノメソドロジーの方針に基づいた分析を通して、育児をするとはどういうことか、について考察する。今日の日本において、夫婦による育児の協業、及び育児の社会化は重要なテーマである。これを論じるに当たっては、育児をこなすことはどういうことなのか、という点を検討する必要がある。というのは、Hays (1996)において、自分は育児をしているつもりでも、妻からすれば十分ではないために無能とされるような夫の姿が示唆されているように、誰もが自明に育児をすることについての共通理解を持っているわけではないからである。そうした関心の下、本報告では、家内労働 (household-labor) の議論においてセットにされがちな家事と育児の概念的水準における結びつき方を検討する。

2 方法

報告者は、2017年8～9月に、関東圏の子育てひろばにおいて、そこを利用する乳幼児の母親へのインタビュー調査を4回実施した。本報告では、そのうち2回のデータにおける、育児の工夫についての質問 - 応答の箇所について、エスノメソドロジーの方針に基づいて分析する。

3 結果

今回検討したすべてのデータにおいて、家事概念は工夫概念との関連性が高いものとして使われていたことが見られた一方で、育児概念は工夫概念との関連性は低いものとして使われていたことが観察された。この意味で、育児概念と家事概念は、並列的關係において異なるものとして使われていたと言える。しかし、その一方で、子どもの要求に対応することを条件として、家事を工夫することを育児の工夫として語る実践も見られた。つまり、育児概念は、家事概念と並列的關係において異なるものでありながら、条件を付与することで、家事概念を包含するような水準でも用いることができていた。これは、Ishii-Kuntz & Coltrane (1992)で示されていたような、育児と家事とを並置するような特徴づけとは異なる知見だと言える。

4 結論

育児概念が、単に家事と並列的關係にある育児とは異なった水準で用いることができることは、育児をすること、ひいては、育児の協業において重要である。つまり、育児は、家事と並列的な育児だけでなく、家事をも含むことで、達成される可能性があるということだ。このことは、育児には比較的積極的である一方で家事には消極的な夫は、育児にかんして無能な夫とみなされかねないことを示している。また、家事概念と育児概念がこうした関係にあることは、それらが家内労働の議論においてセットにされることが、有意味であることについて、示唆を与えるものでもある。

文献

Hays, S., 1996, *The Cultural Contradictions of Motherhood*, Yale University Press.

Ishii-Kuntz, M. & Coltrane, S., 1992, "Predicting the Sharing of Household Labor: Are Parenting and Housework Distinct?" *Sociological Perspectives*, 35: 629-47.